

機械と肉

倉田タカシ

「ねえ機械」

「なんだい肉」

「来るたびに店のコンセントで充電するのやめようよ」

「こうして大地の声を聞いているのです」

「なんて言ってんの大地は」

「え？ ああ、まあ、なんか言ってるよ」

「ちゃんと考えとけよ！」

「やべ店員きた」

「って言ってんの？」

「うわコード引っ掛かっ」

「ねえ機械」

「なんだい肉」

「3つのパーツに分かれてて、どれに話しかけたらいいのかわかんないよ」

「おまえが分解したんだろ！」

「今どれが声出した？」

「えっ、わかんね」

「喋るパーツだけ捨てようと思って」

「「全部喋るよー！ ほら全部声出た！」」」

「じゃ全部捨てるか」

「ねえ機械」

「なんだい肉」

「もう肩まで水がきてるんだけど」

「肉は錆びないからいいよなー」

「もっと自己保存に真剣になれよ！」

「肉の保存つつたら塩だろ？ 塩は機械の大敵だろ？」

「そういやレーザーあるじゃんお前！」

「あれは調理用だっつってんだろ！」

「もう錆びろ」

「ねえ機械」

「なんだい肉」

「最強なのはやっぱ昆虫じゃね？」

「虫は機械の仲間だよ」

「なんで？」

「外側が堅い」

「人と話すときは詭弁アドオンを外せ」

「足6本ほしいなー」

「いま9本あるから、じゃ3本外すか」

「おいそれ多すぎだろ！」

「自分で把握しとけよ！」

「ねえ機械」

「なんだい肉」

「この瓶のフタ開けて」

「0.01秒で開けて0.01秒で閉めるから、その間に願い事を素早く3回繰り返すんだぜ！いいな！」

「『しねしねしね』みたいな？」

「機械は死なない」

「ねえ機械」

「なんだい肉」

「機械は何個モーター入ってるの？」

「まずお前に入ってる軟骨の数をおしえてくれ」

「154個」

「まあ出まかせだろうけど、機械は即答に弱いのでごほうびを上げましょう」

「いや、モーターはいらないから」

「ところでさあ、機械」

「いやそれは違うよ、肉」

「まだなんにも言ってないよ」

「顔に書いてあるよ」

「そう言いながらひとの顔に0と1をたくさん書くのはやめろ」

「ねえ機械」

「なんだい肉」

「この瓶のフタ開けて」

「開けるには約80000の手順が必要です。冷蔵庫に入れるだけなら3つの手順で済みます」

「開けてくれるのかくれないのか、イエスかノーで答えろ」

「（開いたり閉じたりする動作）」

「ねえ機械」

「なんだい肉」

「蚊をどうにかして…」

「血を吸われてくやしいなら食っちゃえばいいじゃん」

「チョコQを咀嚼しながら言われると、なんかそういうものかなという気がしてくる」

「ねえ機械」

「なんだい肉」

「ちょっと排気臭いよ」

「毒性はないよ？」

「あったら廃棄処分だよ」

「環境破壊はダメ！ ゼツタイ！」

「なんで不法投棄が前提なんだつつうか、毒性あんのかよ！」

「毒性はないが自主的に環境を破壊する」

「なにその悪役ロボ声」

「ねえ機械」

「なんだい肉」

「機械は空とべるんだっけ？」

「心の底から願えば、きっと飛べるよ…！」

「アヒルに優しい嘘をつくみたいな言い方してるけど、お前のことを聞いてんだよ」

「補助ブースターないとやる気出ないんでー」

「やる気以前に推力ないだろ」

「ねえ機械」

「なんだい肉」

「この瓶のフタあけて」

「もうそれ専用の道具買えよ、ハンズとかで」

「複合機としての誇りをもとうぜ！」

「何と何の複合？」

「瓶のフタあけ機と漬物の重石」

「台所以外でも活用してほしいな...」

「登記書類的にそれは無理」

「玄関の犬シール、あれ何？」

「ねえ機械」

「なんだい肉」

「もっと真剣に掘ろうよ」

「トリュフ探す機能はねえから」

「昨日プロセッサに豚の脳追加したのに」

「無造作にナマモノ足すなよ！ あと足もこれ豚足じゃねーか！」

「コスプレだと思えばいいじゃん」

「うわ骨でてきた骨！」

「あ、それ昨日埋めた豚骨」

「ねえ機械」

「なんだい肉」

「なんで飛行機こわいの？」

「飛行機じゃねえよ！ 高度が怖いんだよ！」

「機械としてどうよそれ」

「高度な機械は怖がるんだよ」

「貨物室は窓ないよ？」

「せめて手荷物にしろよ！」

「じゃそのカメラだけ持ってくか」

「窓の外は見せるなよ！ 絶対に！」

「ねえ機械」

「なんだい肉」

「その点滅ちょっとうざいよ」

「いま未来の自分にメッセージ送ってんだよ」

「不具合ごまかしてるだろ」

「ちょっとこのパターンを解読してみ？」

「『オ・レ・ハ・モ・ウ・ダ・メ・ダ』」

「あれっ声よく聞こえない 眠い」

「ごめん、電池切れのランプだったわそれ」